

総量5%増の6.7万と過去最大

■羽田国際上屋2社<5月>

本紙が集計した2026年5月の羽田空港の国際貨物上屋2社の国際貨物総取扱量（郵便除く、速報値ベース）は前年同月比4.8%増の6万6627トンと、単月ベースで過去最大を更新した。これまで最高だった25年10月実績（6万5584トン）を上回った。

上屋別では、東京国際エアカーゴ

ターミナル（TIACT）が7.0%増の4万1685トン、全日本空輸（ANA）が1.4%増の2万4942トンだった。

TIACTの取り下ろし量のうち、他空港転送を除く羽田着の生鮮貨物は2458トンだった。生鮮貨物の取り下ろし量全体（他空港転送含む）の品目別内訳は、チェリーなどの果物が44%、サーモンなどの水産物が38

羽田国際上屋2社の5月の貨物取扱量

		実績(ト)	前年同月比(%)
TIACT	積み込み量	19,371	107.7
	取り下ろし量	22,314	106.4
	総取扱量	41,685	107.0
ANA	積み込み量	13,285	102.1
	取り下ろし量	11,657	100.6
	総取扱量	24,942	101.4
全体	積み込み量	32,656	105.3
	取り下ろし量	33,971	104.3
	総取扱量	66,627	104.8

※速報値ベース、郵便は除く

%、オクラなどの野菜が10%、鶏肉などの肉類が5%、切り花などの植物が2%だった。